



2023年度 授業の試行的実践

ユニバーサルデザインを取り入れた学校について考えてみよう

開催日時：2023年5月26日(金)14時50分～16時20分

実施方法：対面

授業担当：小川修史，岡村章司（学部・インクルーシブ教育実践論）

主 催：インクルーシブ教育チーム

新設される「インクルーシブ教育実践論」で想定している学習活動は、総合的な学習の時間における情報「探究的な学習に取り組むことを通して、情報を収集・整理・発信したり、情報が日常生活や社会に与える影響を考えたりするなどの学習活動が行われるようにすること」と同じ方向性であることから、学部2年生を対象とした講義「総合的な学習の時間の理論と実践」を当初の予定通り実施する中で、インクルーシブ教育実践論への応用可能性を見出すこととしました。

日時は2023年5月26日(金)14:50～16:20で、受講者数は161名でした。講義中にグループワークを実施し、タイトルを「ユニバーサルデザインな学校を作ろう」としました。まずユニバーサルデザインを取り入れた学校のデザインについて3～4名のグループで検討してもらいました。ユニバーサルデザインを取り入れるためには、社会的マイノリティの「困り」を認識する必要があります。学生はこちらが指示していないにも関わらず、情報機器を活用し、自ら調査を実施し始め



ました。次に、ユニバーサルデザインな学校のCMを動画で作成してもらいました。こちらも多くが教室の外に自ら繰り出し、それぞれがオリジナリティのある作品を作ろうと必死な様子が見られました。

大切なのはインクルーシブ教育を知識として単に学ぶのではなく、学生が主体的に思考することであると我々は考えています。講義後のアンケートで、「一般的な講義形態と比べて、思考する機会は多かったですか？」においては5段階評価で平均4.79、「この授業の満足度はいかがですか？」は平均4.83と高かったことから、「インクルーシブ教育実践論」においては、この講義形式を採用する必要性が示されたと考えています。